【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成18年12月7日(2006.12.7)

【公開番号】特開2005-131480(P2005-131480A)
【公開日】平成17年5月26日(2005.5.26)
【年通号数】公開・登録公報2005-020
【出願番号】特願2003-368398(P2003-368398)
【国際特許分類】
Ｂ０９Ｂ　3/00　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　1/10　(2006.01)
Ｃ０５Ｆ　9/00　(2006.01)
Ｆ２６Ｂ　11/14　(2006.01)
Ｃ０２Ｆ　1/461　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｅ
Ａ２３Ｋ　1/10　Ｚ
Ｃ０５Ｆ　9/00
Ｆ２６Ｂ　11/14　ＺＡＢ
Ｂ０９Ｂ　3/00　３０３Ｍ
Ｃ０２Ｆ　1/46　１０１Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成18年10月20日(2006.10.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
以下に本発明による生分解性廃棄物のリサイクル方法の実施例を図によって説明する。図２に本発明方法に使用する生分解性廃棄物の処理装置の構造を示す。図２において、生分解性廃棄物の処理装置は、処理チャンバー５と、蒸気管９と、熱交換器６と、循環・加圧ポンプ１３と、触媒酸化装置７と、電極電解装置８との組合せからなるものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
図４は、いずれも生分解性プラスチックス（ＰＬＡ）製の厚さ４ｍｍの板、厚さ０．２５ｍｍのゴミ袋、厚さ０．２５ｍｍのケース、厚さ０．２０ｍｍのコップを１００℃～１５０℃で２時間水蒸気加熱をしたときの劣化の程度を示したものである。さらに参考のため、１２０℃で２０分間水蒸気加熱処理した例をあわせて示した。図４において、「爪で押して割れない」、あるいは「爪で押して裂けない」のは劣化していないことであり、この状態では加水分解は進行しない。